

小田原市立中央図書館 地域資料コーナー通信 第16号

編集/発行 小田原市立中央図書館
地域資料コーナー
〒250-0875 小田原市南鴨宮1-5-30
☎ 0465-49-7807
E-mail: tosho@city.odawara.kanagawa.jp
令和5年8月

小田原市「関東大震災100年」関連事業

「100年前の目撃者」 ～ シリーズ 図書館の宝もの 2023 ～

日時：令和5年8月22日(火)～9月3日(日) *28日月曜日休館

場所：小田原市立中央図書館(かもめ) 2階 地域資料コーナー

9月1日は「防災の日」。今年は、大正12年(1923)の関東大震災から、ちょうど100年を迎えます。マグニチュード7.9、震度6と推定される大地震によって、小田原町（現在の小田原市の中心市街地）では、全建物のうち78.9%が全壊・全焼し、死者370人、負傷者1,918人、行方不明者4人の被害を出しました（小田原警察署「震災状況誌」より）。

今回の、「100年前の目撃者」と題し、昭和26年(1951)に図書館に寄贈された故大島環氏たまき（現在の南町在住。震災当時満29歳）の震災アルバムと環氏が書き記したメモ帳の実物、そしてメモ帳に記された時系列に沿って写真とメモを組み合わせたパネルを展示します。メモ帳は内容を含め初公開です。

カメラ愛好家だった環氏は、地震翌日から自分のカメラ（ヴェスト・ポケット・コダック）で写真撮影、3か月後、みずから現像した写真を2冊のアルバムにまとめ、それぞれの写真の解説をメモ帳に書き残しました。これまでも写真の一部が小田原の震災状況を知ることのできる資料として、『目で見る小田原の歩み』などに掲載されてきました。余震よしんの続く中、環氏は無傷だったカメラと1巻のロール・フィルム（8枚撮り）で、翌9月2日から、まずは自分たちや近所（十字町、現南町）を撮りはじめます。そして4日、市街地へと足を延ばし、無事であった行きつけの写真店十字堂の主人からフィルムを調達し、さらに被災した街を撮り歩きました。お堀端通りより東側、市街地の東半分は建物の倒壊だけではなく、火災により焼け野原となった風景を目撃します。環氏は、その後も1つ1つ日常を回復していく小田原の様子をカメラに収めていきます。写真とそのメモからは、被災者でもある環氏の視線を通した大震災と、立ち上がろうとする人びとの姿、環氏自身の心情がうかがえます。

アルバムには、環氏の実弟卓氏すぐるが撮影した小田原城内の御用邸や本丸、閑院宮別邸の被災状況の写真が含まれています。地震から5日後、陸軍軍人である卓氏は、小田原の被災状況でんしよばとを伝書鳩で参謀本部に報告する任務を帯び、小田原に到着しました。卓氏の撮影場所は、平時でも一般人が容易に立ち入れない場所です。しかも戒厳令下、立ち入り禁止場所を自由に調査し、記録に残せたのは軍人や警察官だけで、これらは軍人の卓氏だからこそ撮影できた被災直後の貴重なものなのです。



地震翌日（9月2日）午前10時半ころの西海子通りさいかいち

地域資料コーナーからのお知らせ

図書館所蔵貴重資料(古文書)の目録を 小田原市のホームページで公開

小田原市のホームページ⇒公共施設⇒図書館・博物館・文化施設⇒図書館・図書室
⇒図書館 申請・ダウンロード

* 追加史料の収録、旧目録に修正を施し、9月以降、下記2資料の目録をPDFファイルで順次アップします。

① 小田原有信会文庫

小田原有信会(ゆうしんかい)(平成28年に活動停止)は、旧小田原藩大久保家の家臣子孫たちの会です。

旧藩主大久保家の資料は、東京の本邸が戦災に遭い、戦後平塚の屋敷も火災に遭ったため残っておらず、家臣子孫からの寄贈資料で構成されたこの文庫は、小田原藩政を物語る数少ない史料群です。

有信会から所蔵資料が寄贈されたのは昭和37年(1962)。図書館では、元会長川上刀根五郎氏(とねごろう)の寄贈資料とともに、特別集書として保存・公開し、昭和43年(1968)には『特別集書小田原有信会文庫解説目録』(No.1~166、計293点)を発行しました。その後の追加寄贈資料(No.167~199、計352点)については、平成26年(2014)に『小田原有信会会報』55号にて目録・資料解説が紹介済みです。

これらは、「御家中先祖並親類書」をはじめとする大久保家中関係資料や、「近世小田原史稿本」(こうほん)原稿などからなり、追加寄贈資料には明治期の士族授産計画に関する史料などが含まれています。

今回、追加寄贈分とあわせた目録の統一データを公開します。

② 船津家(小船)文書

船津家は、江戸時代に小船村(おぶね なぬし)の名主役を代々つとめた家です。その文書は、村・地域の様子がわかる市内有数の史料群で、なかでも宝永4年(1707)の富士山噴火被害に関する史料がまとまって残っていることが特筆されます。このうち、『小田原市史』史料編近世Ⅰ・Ⅱに計54点、『同』史料編近代Ⅰ・Ⅱに計17点が収録されています。

船津家文書の目録は、すでに旧小田原市立図書館によって刊行されており、昭和59年(1984)の『小田原の近世文書目録』3に近世文書1,083点、同61年(1986)の『同目録』5に近代文書1,419点を収録しています。

今回、未整理だった資料と追加寄贈された文書を目録に追記し、全3,214点の文書を近世文書、近代文書、未整理資料、追加寄贈文書の順に並べ、利便性を考え通し番号を付しました(旧番号も併記)。あわせて、旧目録での誤読・脱字等の加筆・修正を行っています。

【地域資料コーナー 利用案内】

市立中央図書館(かもめ)2階。☎0465-49-7807(直通)

休館日は毎週月曜日、年末年始、特別整理期間。

資料の出納・ご相談は9時~12時、13時~16時45分に承ります。

図書・資料は原則室内での閲覧のみ(郷土図書は貸し出し可)。

* 貴重資料：電話で事前に閲覧申請・ご予約をお願いいたします。

【編集後記】

大地震をはじめとする過去の
大災害からは学ぶべき教訓が
たくさんあります。現代社会
での新たな災害課題とともに、
改めて考えていきましょう。